

平成29年度第3回学校関係者評価委員会の報告

日時 平成30年2月21日 14:00～15:30

場所 加世田高等学校 応接室

出席者 委員 加世田高校PTA会長，万世中学校長，大笠中学校長

金峰中学校長，万世中PTA副会長

学校 校長，教頭，事務長，教務主任，生徒指導主任，進路指導主任，保健主任

質問事項（教育活動全般）

- 日曜・休日等の課題等の量が自分の進路目標からすると適当ではないと感じている生徒や保護者が10%程度いるが，具体的にどのように感じているのだろうか。
→ 生徒の実態調査では，課題量が少ないと感じている生徒，課題量が多く自分の時間が欲しいと感じている生徒の両方がおり，2極化が見られる。
- 携帯の所持や持ち込みの許可状況や持ち込みの条件等について。
→ ほとんどの生徒が所持している状況である。願いが出れば100%許可している。持ち込みの条件は，申請理由とフィルタリング，校内での使用不可ですが，来年度から持ち込みについては，許可制を廃止する方向。また，場所・時間を限定し，保護者との連絡のみに校内で使用させる予定
- 英語の資格試験にはどのようなものがありますか。
→ 英語検定の他にGTECの受験を行う予定，英語検定については，二次試験対策は必ず行っている。

感想・提言等

- 社会構造の変化に伴い，職業観やこれから求められる専門性などの情報を取り入れるような進路指導が必要ではないか。
- 飛びたて高校生事業での生徒の研究成果等を示す場（公民館等に掲示する）を設定してはどうか。
- 先輩から充実した高校生活を送っている様子を話してもらおうと中学生はよく話を聞いており，良い機会であった。土曜授業等を利用し，連携をしていきたい。
- 先生方の生徒への思いや考えを聞くことができ参考になった。
- PTAの視察で高校を訪問すると学校の様子が見えて安心する。
- 体験入学や学校説明会で全ての部活動の活動等を伝えてもらおうと勉強だけでない学校の様子がとらえられ，学校選択の参考になる。
- 募集要項が丁寧に作られており，記入例等も分かりやすかった。
- 学校便りを学校に掲示するだけでは保護者へ伝わらない。全生徒に配布し，家庭へも伝えることでアピールになるのではないか。
- 地域の中学生の保護者に対して，学校の良さを高校生の保護者から伝えてもらう工夫が必要ではないか。
- 高校においても特別支援教育の推進は必要となっていくので学校評価の項目に特別支援教育の視点を入れてはどうか。
- 高校生が中学校に出向いて，直接高校の雰囲気や活動を伝えたり，活動の様子を身近に知ることができるのは一つの連携に姿だと思ふ。交流の場が広がれば，学校の理解につながると思ふ。
- 高校の先生方が気軽に中学校に授業の様子等を見にきて交流を深めてもらいたい。
- メディアとの付き合い方の現状を情報交換し，生活リズムをどのように作っていくかなどの忌憚のない意見交換を行っていきたい。